

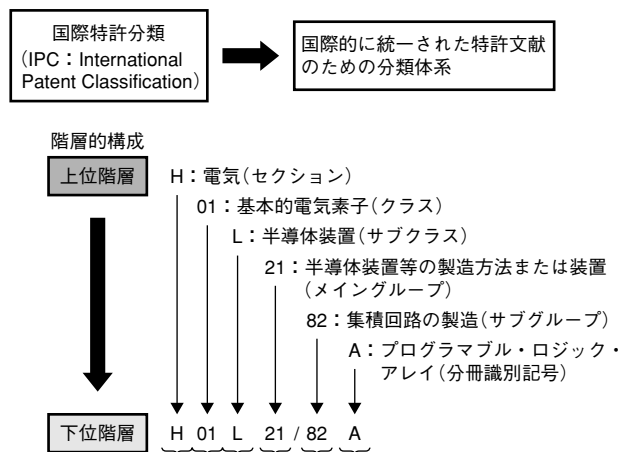
実際に特許情報を 入手してみよう！(後編)

大嶋洋一

前回(本誌2002年2月号)に引き続き、実際に特許情報を入手するための方法を解説する。今回は、技術分野を特定してから特許のキーワード検索を行う方法(パテントマップガイダンス)と検索する用語に対応したコードを用いて検索する方法(Fターム)を紹介する。(編集部)

3 特許分類(IPC)検索-特許検索のプロの定石-

キーワード検索の最大の弱みは、ほんの少しでも表現の違いがあると、結果が異なってしまうことです。例えば、「メモリー」と「メモリ」、「ダイナミック・ランダム・アクセス・メモリ」と「ダイナミックランダムアクセスメモリ」のような差異でも、コンピュータは「相違する」と判



〔図1〕国際特許分類

一般の図書が一定の分類体系下で分類されているのと同じように、特許情報にも国際的に統一された分類体系である「国際特許分類(IPC: International Patent Classification)」がある。世界の特許情報はこの分類に基づいて、発明の内容に応じた分類記号が付与されている。

断します。このような問題を避けるために、類似語を考えて検索式を立案するわけですが、類似語で補完できる範囲にも限界があります。

そこで、特許の世界で用いられている特許分類を利用した検索方法を紹介します。

●特許分類

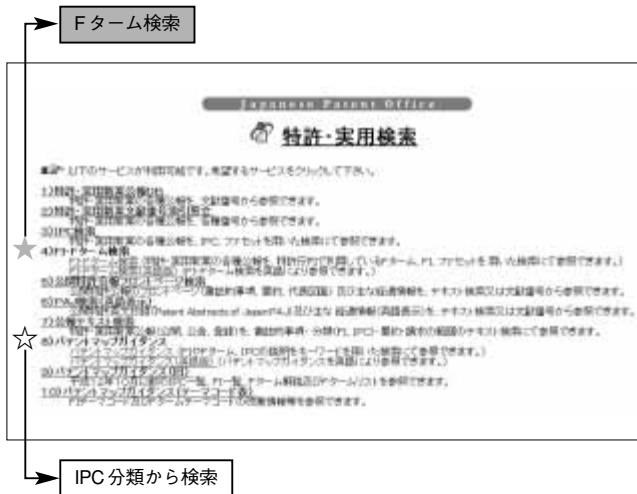
特許には、特許文献を整理するために用いられている分類記号があります。これを「国際特許分類(IPC: International Patent Classification)」といいます(図1)。この分類記号は、国際的に統一された特許文献のための分類体系です。分類体系としては一般的な階層構造をとっています。上位階層に行くほど抽象的、下位階層に行くほど具体的な技術内容になっており、上位から下位に向かって、「セクション」、「クラス」、「サブクラス」、「メイングループ」、「サブグループ」となっています。

さらに細かく分類する必要がある場合、日本の特許独自の「分冊識別記号」という分類が付与されています。IPCの分類は、日本の特許文献に必ず付与されています。したがって、自分の発明と同じような技術分野に属する文献を効率良く検索するには、自分の発明がどのような分類に属するかを知り、その分類を中心に検索すればよいのです。

では、自分の探したい技術分野がどのように分類されているかを調べるにはどうしたらよいのでしょうか。このために用意されているのが、「パテントマップガイダンス」です(図2)。

●パテントマップガイダンスは検索のための必須ガイド

パテントマップガイダンスには、さまざまな機能が組



〔図2〕 特許庁ホームページ(特許・実用検索ページ)
自分の探したい技術分野が、どのように分類されているかを調べるとき、
パテントマップガイダンスを利用する。
<http://www.ipdl.go.jp/Tokujitu/tokujitu.htm>



〔図3〕 パテントマップガイダンス(1)
特許分類を解析した分類解説書は存在する。しかし、全技術分野を網羅
するためにすべての分類を理解するのは困難である。そこで、技術的なキ
ーワードにより関連分類を検索することを可能にしたのが、パテントマ
ップガイダンスである。キーワードを入力すれば関連分類が得られること
から、技術者にも手軽に利用できるデータベースである。



〔図4〕 パテントマップガイダンス(2)
ここでは、「プログラマブルロジック」に関連した分類を検索する例を
示す。この分類情報から関連の強い分類を探し出すことが可能である。例
えば、PLDと試験に関連する技術を探したいときには、「G01R31/28@A」
というIPCが先行技術発見の可能性が高い検索範囲ということになる。

み込まれています。その多様な機能は、特許情報のしくみについて理解を深めていきながら、各自で開拓していただくとして、今回はみなさんが技術分野に対応するIPCを調べるときに、パテントマップガイダンスをどのように利用するかについて説明します。

図2の画面の「パテントマップガイダンス」を選択すると、図3に示すようなメニュー画面が登場します。こ

でみなさんが利用するのは、キーワード検索といわれる機能です。これは、みなさんが知りたい技術分野に関連したキーワードを入れると、分類説明書の中にそのキーワードが用いられている箇所を返答するという機能です。例えば、「プログラマブルロジック」というキーワードを入力すると、関連した特許分類についての情報を返してきます。

図4では、「G01R31/20@A」、「G06F11/23@D」、「H01L21/82@A」、「H03K19/173, 101」、「H03K19/177」といった分類に「プログラマブルロジック」ということが用いられていることがわかります。こうして探したい技術分野が特定できると、単なるキーワード検索と比較して、先行技術文献として技術的により近いものが含まれていることとなります。これにより検索効率や検索結果が大幅によくなります。例えて言うなら、いろいろな種類の魚がいる中からねらった魚を釣ろうというよりも、同じ種類の魚がいる釣り堀でねらった魚を釣るほうが、効率良く目的の獲物を釣り上げることができるということです(図5)。特に、検索データベース(DB)を利用する場合、対象範囲が広いとシステムに対する負荷が大きくなり、反応が遅くなります。できるだけ対象範囲を絞り込むくふうは、検索を迅速に進めるために重要な要素となります。